

【株システム未払い賃金等請求事件 第1回口頭弁論】傍聴記

—2022年3月24日(木)午前11時 盛岡地方裁判所—

1週間前に地震があったため東北新幹線が止まってしまい、急きょ前日の夜行バスで盛岡に向かう事になった。早朝に着いた盛岡は前方に岩木山が見え、すがすがしいほどの快晴。



バスから岩木山を臨む



樹齢240年以上のモミの木



石割桜

盛岡地裁の前には建物を超えるほどの大きなモミの木。右手には巨大な石（花崗岩）があり、石の真ん中を割って樹が伸びていた。樹齢360年といわれるエドヒガンザクラ。石割桜と呼ばれる国の天然記念物だそう。

地裁ロビーで原告のTさんに再会。今年1月17日の株システム本社前アピール行動から66日ぶりだ。Tさんから「今日も地震があったが、これくらいなら大丈夫」と言われて私たちはホッとした。



10:30 地裁前アピール行動には、取材陣やカメラマンが来ていて、横断幕を持っての入場行進を撮っていた。

11:00 11時から原告のTさんに続いて私たちもいざ法廷へ。

1列目・2列目の席は全て記者席で、17席ある記者席には記者10名（女4名・男6名）とカメラマン2名。

3列目からの残り30席はコロナ禍のため、半分の15席しか傍聴できないという事だったが私たち3人は抽選に当たり、法廷に入った。

宮城合同労組の星野委員長の話では「こちらでは、コロナ禍でも記者席は縮小されない、減らさない」という事だった。

裁判長が入廷しても被告席は空席のまま。弁護士すら来ていない。

私たちメトロコマース事件の裁判も被告席は空席、弁護士すら出廷しなかった。誰に向かって裁判をしていると思っているんだ！取材陣はそういう会社の態度を、もっと報道すべきだ！

原告側だけの出席で裁判は始まった。

Tさんの意見陳述は静かだがゆるぎない信念が伝わって来て、この人を応援していくぞと心からそう思った。石割桜は満開になって散ってしまうが、また来年もその次の年も、毎年石を割って咲き続ける。職場でひとり闘いながら声をあげているTさんの姿と重なった。毅然として美しい。

陳述書のコピーもPDFも配信されたので、ぜひ読んで欲しい。

次回の公判は4月28日(木)午後3時半と決まって閉廷。

11:40 岩手県民会館第3会議室で記者会見。

記者からの「裁判で訴えたい事は？」の質問にTさんは「待遇を公正に。これからの社会に出て行く若者のために頑張りたい」と答えた。



引き続き、同じ場所で『支援する会結成総会』が行われた。原告の霜越弁護士は記者会見の後、これから仙台で裁判があるとの事で、車でトンボ帰りした。代わりに星野委員長が闘いの経過・課題などを報告した。

「会社側の荒川法律事務所から答弁書がきて、全部棄却しろと言ってきた。比較対象は事務員ではなく正社員全部。会社はどうも、これから同一労働ではないという証拠を作ろうとしている」と話した。

その後、自己紹介を兼ねて出席者全員が発言した。郵政シルバークユニオンの方は飛行機で支援に来たと言う。支援の皆さんの発言からも、いろいろな闘いの情報を得た。

当日の夜、この裁判の様子が岩手朝日テレビのニュースやヤフーニュースで報道された。

検索する場合は「岩手朝日テレビ キステム」「ヤフーニュース キステム」で。

※この傍聴記とTさんの意見陳述書は、女闘労倶楽部ホームページでも公開しております。

(<https://metroclub-2021.jimdofree.com/>)

SSSS 追記 SSSS

夜行バスでの往復は若い頃より何度も経験しているが、今回は行きも帰りも一睡も出来なかった。どこでも寝られるし、歩きながらも寝てしまえるのに、歳のせいかなあと思いながら帰りの夜行バスに乗り込んだ。窓側の良い席であったがバスの振動が背中に響いて眠れない。

そうか！そうだったのか！やっと気が付いた。

歳のせいではない。道路の凸凹が激しいのだ。

11年前の東日本大震災の後も、この地域は何度も地震があり、そのたびに舗装されてきた。何度も起きる地震のせいで、舗装はされても道路はガタガタになってしまっているのだ。震災によるインフラの被害はずっと続いているのだと痛感させられた。

途中、トイレ休憩で外に出た時に運転手さんに確認したら、やはりその影響で仙台あたりが一番ひどいという事が分かった。

一晩中、背中にスシンスシンと振動を受けながら目を閉じた。

私たちは福島を、被災地の事を忘れてはならない。

(U)